

# 諏訪湖の水質保全

## 第8期計画を策定

### 県下流域も視野に各種対策

県は29日、第8期諏訪湖水質保全計画（2022～26年度）を発表した。第7期計画から引き続き「人と生き物が共存し、誰もが訪れなくなる諏訪湖」を目指し、下流域も視野に入れた水質保全対策、貧酸素対策、ヒシの大量繁殖対策、生態系の保全などを総合的、計画的に進める。

（前田智威）

約1年間の県環境審議会での検討を経て、市町村からの意見聴取や河川管理者との協議、環境大臣の同意を得た上で策定した。第8期計画では、今後5年間でヒシの除去量を倍増させ、COD（化学的酸素要求量）を現状の1/3に当た

り5・5リットルから4・7リットルに引き下げる目標を示した。より厳しい目標を掲げたことについて、県水大気環境課は「将来予測の上、関係者がみんなで頑張れば達成できるとの期待を込めた」としている。諏訪湖の水質は昨年度の調

期計画では今後5年間で除去量を倍増することを目指す。第7期に続いて水草刈取船による刈り取り、船の入れない浅瀬での県、市町村、関係団体協働の抜き取り、発生直後の種子の除去などに取り組むとしている。

査で、COD年平均と全窒素がそれぞれ第7期計画の目標を達成するなど改善傾向にある。一方で、昭和40年代には500トを超えることもあった漁獲量は令和以降10トを下回り、ワカサギの大量死も発生。ヒシの繁殖面積は2009年の236秒をピークに減少傾向であるものの、18年以降は163秒から167秒（21年）へと微増している。

貧酸素の原因で窒素やリンの濃度上昇（富栄養化）にもつながるヒシについて、第8